

10 / 18 「祈りへの応え」

ローマ 12 : 9-21

パウロはローマのクリスチャンに書き送っています。「常に祈りなさい。」神は私達の祈りにどのように応えてくださるのでしょうか。

その答えを私達は、旧約聖書に登場するヨセフの人生の中に見出すことができます。

ヨセフはヤコブの12人の息子の末っ子でした。頭はいいけれども、我がままで、可愛げのない子供だったようです。彼の傲慢で、人を人とも思わない態度は、兄達の激しい怒りを買います。

弟のあまりの生意気さに腹を据えかねた兄達は、ある日彼をしばり上げ、荒野に捨て去ります。ヨセフが13才頃のことです。彼は砂漠の旅人に拾われ、エジプトに売られてしまいます。そしてエジプトの高官の奴隷として使役されることとなります。

このような酷い目に合わせた兄弟達に対するヨセフの憎しみは、察して余りがあります。

ヨセフは、忠実な召し使いという評判を得て、主人から可愛がられます。しかしそこでも大きな試練が彼を待ち受けていました。

主人の妻がヨセフを誘惑したのです。拒絶すると妻は怒り、虚偽の証言をして彼を犯罪人に仕立て上げます。ヨセフが牢獄で兄達を呪ったことは間違いありません。

しかしやっと幸運が訪れます。エジプトの王が不思議な夢を見るのです。一つは、7頭の肥えた牛が、7頭のやせた牛に食われてしまうという夢です。二つ目は、7つの健康な麦の穂が、焼けただれた7つの麦の穂に飲み込まれてしまうという夢です。

王様は家来に、この不思議な夢を解読することのできる人物を捜すように命じます。

話しをはしょって結論だけを述べますと、ヨセフが見事に夢の解読をしてみせるのです。彼の解釈は次のようなものでした。

これから7年の豊作があり、その後7年の凶作が続くというのです。ですからエジプトは、豊作の間に食糧を十分蓄えて、その後の7年間の凶作に備えなさい。これが、ヨセフが王様のためにした夢の解読です。王様は痛く感心し、ヨセフを大蔵大臣に取り上げます。

間もなく世界中を飢饉が襲い、エジプトには様々な国々からおびたしい数の人々が食糧を買いにやってきます。何とあの憎んでも憎みきれないヨセフの兄弟達もその中に混じっていました。

彼等はまさかエジプトの大蔵大臣がヨセフだと気づきません。復讐の鬼となったヨセフは、彼等に盗人の嫌疑をかけていたぶり、脅かし、さんざん苦しめます。兄弟達は、何故そのような目に遭わなければならないか分からず、おじ惑い、泣き、狂ったようになります。

しかし、あれ程誓った復讐を果たす機会に恵まれながら、ヨセフの心は満たされません。

彼は復讐か、赦しかの分かれ道の前に立たされていることに気づくのです。彼はあれかこれかの選択を前にして悩み、苦しみ、再三に渡って涙を流します。

悩み、苦しんだ末にやっとヨセフは、あれ程復讐を誓った兄弟達を赦す決心をします。

聖書はその場面を以下のように記しています。「ヨセフは兄弟達に言った。『私はヨセフです。どうかもっと近寄ってください。私はあなたたちがエジプトに売った弟のヨセフです。』ヨセフは兄弟達皆に口づけし、彼等を抱いて泣いた。」

このヨセフの物語から、私たちは神が私達の願いにどのように応えてくださるかを知ることができます。

ヨセフは復讐の日が来るのを一日千秋の思いで待っていたにもかかわらず、神はその願いを適えられませんでした。逆に、ヨセフが求めなかったもの、考えてもみななかったものを選択肢として彼の前に差し出されたのです。つまり、復讐ではなく、赦しと和解のチャンスをお与えになったのです。

私達が祈る時、神は静かに私たちの良心に語りかけられるのです。忍耐強く私達の良心に語りかけ、私たちを説得されるのです。私たちが欲するものをではなく、神ご自身がよしとするものを選択肢として提示し続けられるのです。

そして私たちが正しい道を選ぶように、祈る私たちの心を変えてくださるのです。復讐者ヨセフを赦しの人ヨセフに変えられたように、です。

その意味で、ヨセフ物語は私とあなたの物語です。神は私達に辛抱強く向き合ってくださいまするのです。私たちが神の思いに従うように、この混沌とした世界に小さな光を灯すように、憎しみや争いの中に小さいながらも和解の声を挙げるように、常に説得を続けておられるのです。

ですから、常に祈る者となろうではありませんか。祈る喜びを体験しようではありませんか。祈りこそ、人生の旅人の羅針盤です。錨です。勇気の源です。